

年々コンテナ取扱量が増加するシンガポール港。将来的には年間3,100万TEUの貨物を取り扱うことができるよう、新パースの拡張工事が進行中だ。



1日6万個のコンテナを捌く

東南アジア有数の観光国であるシンガポールの中でも、セントーサ島はよく知られた観光地である。本島とケーブルカーで結ばれた島で、水族館、海洋博物館、ラン園などのレジャー施設、リゾートホテルが集結する観光コースでは定番のスポットだ。シンガポール港はこのセントーサ島の対岸に東西に広がっており、この国の発展の象徴ともなっている。

世界123カ国・600カ所の港と結ばれ、1日平均90隻の船舶が寄航している。2004年度のコンテナ貨物取扱量は

PORTS & HARBOURS IN THE WORLD

シンガポール港

(シンガポール共和国)

シンガポール港は、コンテナ貨物取扱量では香港と並んで世界トップの座を競うアジア最大級のハブ港だ。1980年代後半から世界に先がけて港湾業務のITインフラ化を進め、利便性の高い港づくりに力を入れている。



シンガポール港では、荷役関連の情報交換、港湾関係申請書の提出などをオンライン上で行うコンピューターシステム「PORTNET」を導入。世界の港湾の中でも先進的なIT化を図っている。

2,062万TEU（前年比14.1%増）と過去最高を記録した。05年は1~4月の累計で712万TEUと、すでに前年同期比11.9%増となり、04年度の記録を更新しそうな伸びを見せている。

膨大な貨物量を取り扱うことができる背景には、着岸から離岸まで所要12時間以内で、1日あたりコンテナ船60隻、6万個のコンテナの積み卸ろしが可能という作業能力の高さにある。

コンテナの荷役作業を支えているのが、プラニ、ケッペル、パシルパンジャン、タンジョンパガーの4つのコンテナターミナルである。なかでも1997年に稼働を始めたパシルパンジャンは、

最先端技術を導入したターミナルで、水深15mのパースとコンテナ18列に対応できる岸壁用クレーンを装備し、世界最大級クラスのコンテナ船の受け入れを可能にした。1人のオペレーター

がコントロールルームから最大6基を操作できる「オーバーヘッド・ブリッジ・クレーン・システム」も取り入れている。

港湾関連申請業務をすべてIT化

シンガポール港の特色は、全世界の中継コンテナ流通量の17%を取り扱うハブ港であることだ。取り扱うコンテナ貨物の8割は、周辺諸国への積み替え貨物だといわれている。

同港を運営するシンガポール港湾局（PSA）では、1988年に「CITOS」というコンピューターシステムを開発し、世界でもいち早く港湾業務のIT化に着手した。これはヤード内でのコンテナ取り扱い作業を円滑にするため、コンテナ船接岸後のクレーンの移動、輸送トラックの配置、積み替え船への移



約8割が積み替え貨物というハブ港としての役割を果たすべく、着岸から離岸まで12時間を実現するスピーディーな荷役作業が行われている。

日本は第3位の貿易相手国

シンガポール港では2002年から、アメリカとの海上コンテナ安全対策（CSI）をパイロットプログラムとして実施している。シンガポール海事港湾庁（MPA）や税関局（CED）と連携して、ガンマ線検査によるコンテナのチェックを行い、安全対策をさらに強化する。

PSAでは、増大する貨物量や次世代の超大型コンテナ船の入港に対応するため、最先端のコンテナ荷役設備の充実に巨額の投資をしていく計画だ。現在は5～7年計画でパシルパンジャンターミナルに計15バースを増設中で、3バースは05年度中に稼動する予定だ。バースの増設によって、年間コンテナ貨物取り

動などを中央制御室で集中管理し、オペレーターにリアルタイムで業務指示を出すシステムである。

さらに89年には、海運業者、PSA、税関など海事関係者全体をネットワークで結ぶ「PORTNET」を導入。利用者は港湾関係手続きの申請、入港スケジュールなど荷役関連情報や船舶航行安全管理情報の確認ができるほか、税関申告、許可証発行、関税の支払いもオンラインで決済することが可能だ。2005年にはPortnet.comを設立し、顧客の生産性向上とコスト削減につながるよう、サポートサービスに力を入れていく方針だ。

陸上輸送を効率化するため、コンテナ番号の自動認識システムなどを取り入れた「ペーパーレス・フロースルー・ゲートシステム」も実施している。陸上運送業者は世界最速の25秒でゲートを通ることができるようになった。また、港内の自由貿易地区には、シンガポールの国内市場に供給されない限り、荷揚げされた物品を無税のまま保管できる屋外・屋内保管スペースを設置。輸出入の定型貨物とコンテナ

貨物には72時間、積み替えおよび再輸出の貨物には14日間の無料保管サービスを提供している。

このように最先端のオペレーションシステムの構築や港湾設備の充実によって、シンガポール港は「ロイズリスト・マリタイム アジア・アワード2004」および「アジア貨物輸送・サプライチェーン・アワード2005」で、アジアにおける最優秀コンテナターミナル・オペレーターに選出された。迅速なサービスで利用者の利便性を高め、同時にコストダウンを実現したことが世界的にも高く評価されている。



近代的な高層ビルが林立するシンガポール。年間700万人を超える観光客が訪れている。



ヤード内での輸送作業を効率化するため、「CITOS」という集中管理システムにより、オペレーターにリアルタイムで業務指示が与えられている。

扱い能力を、現在の2,000万TEUから3,100万TEUに引き上げることを目標としている。

日本とシンガポールは、2002年1月に「日本・シンガポール新時代経済連携協定」を結び、貿易・投資だけでなく、金融、情報通信、人材育成の分野でも包括的な二国間の経済連携を目指している。2003年度は輸出入総額で日本は第3位と、シンガポールの重要な貿易相手国になっており、今後も両国関係の発展が期待されている。

（文／小野寺明子 写真提供／シンガポール港湾局（PSA）、JTBフォト）